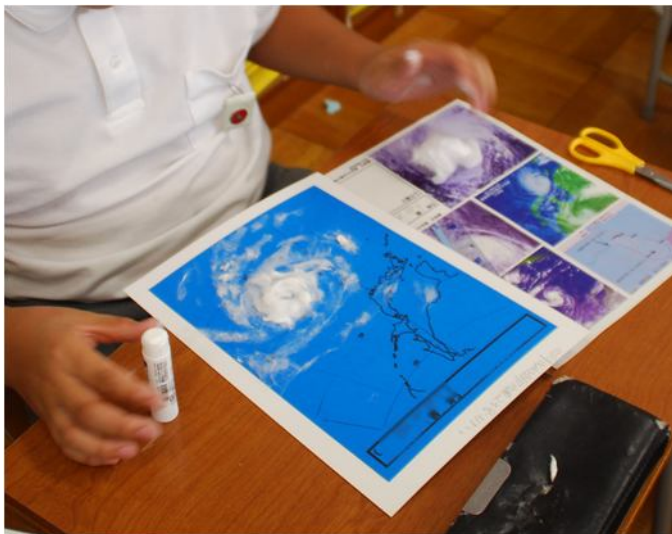


「台風をつくる(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

衛星画像だけでなく、台風の模型を作る最大の狙いは、台風の構造を立体的に見ることである。その為に、上から見た平面的な形状だけでなく、台風の雲(積乱雲)の厚さに着目させた。一番大切なことは、中心の目の周囲の雲が厚いので、目を取り囲むように、脱脂綿をつけることであ



これは、ほぼ完成した「作品」を、よく見る子ども。衛星画像と何度も見比べて、細部を修正していた。



同じ研究所(班)のものを並べて、比較する子ども。この時、自分の作品(左)が、雲の腕の向きを間違えていることに気づき、「あっ、しまった！」と大きな声をあげて、もう一度最初から作り直していた。



これは、台風の目の周りの脱脂綿(雲)。目の壁がなかなかよくできている。



「断面を見てみたい」という申し出があったので、私がカッターで切断して渡した。台風の断面構造がよく表現されている。



地球は球体なので、正確には平面的な台紙に作ったのではダメだ。台紙を丸くして、台風を横から見ると、李地球規模の立体感がよくわかる・・・ということを発見。「わあ、宇宙から台風を見てみたい！」